あたりまえじゃない

松江市立美保関中学校　三年　　赤山結衣子

　みなさんは兄弟と言葉で話をしたことがありますか。私はありません。

　私には三つ離れた弟がいます。弟はたくさんの障がいがあります。そのうちの一つで言語障がいがあります。言語障がいがあるため話すことが難しいです。できないと言ってもいいでしょう。普段は「あーあ。うーう」などの声を出しています。字も書くことができません。

　それならばどうやって弟と「会話」をしていると思いますか。言葉は話せない、文字も書けない。実際に「会話」はできていないのかもしれません。「会話」のようなものをしているだけな気もします。弟とはいろんな手段を使って意思疎通しようと毎日がんばっています。普段はジェスチャーやほしいもの、見たいものがあると指を差したりしています。ですが、ジェスチャーだけでは伝わらないことがたくさんあります。弟は全然伝わらないと思い通りにいかなくて怒り出すこともあります。怒ると、物を投げたり、扉をたたいたり家族の誰かの髪の毛を引っ張ったりもします。あまりにも伝わらないと泣き出すこともあります。

　みなさんは街中などで障がいがあると思われる人を見かけたことがありますか。もし、騒いでいる人や自分と少しでも違っていたら、「うるさい」「何あれ」などの言葉を、たとえ口には出していなくても心に思い浮かべていたりしませんか。私は以前そう思ったことがありました。私は思わず口に出してしまったので、母に「そんなこと言ったらダメ」と、叱られてしまいました。障がいがある弟がいて、障がい者のことを理解しているつもりでいても、実際自分と少し違うだけでつい差別してしまっている自分がいます。そんな自分に気付くと、はずかしい気持ちになります。

　みなさんは兄弟と言葉で話したことが当然あると思います。また、その兄弟とけんかなどをしたときには「もう話したくない」「大嫌い」など思ったこともあるかもしれません。みなさんにとっては、あたりまえの日常の一ページにすぎないと思いますが、でも私にとってはなんだかとてもうらやましく感じるところもあります。

　では、弟はみんなと話せないからかわいそうな人なのでしょうか。私の弟は言葉を話せないからといって声を発しないということはありません。私たち家族を呼ぶときには、その人の肩をつついたりして「あ、あ」と言い、手を引っ張って連れていきます。ほしいものがどこにあるかわからないときは、私たち家族が、そのほしいものがわかるまであきらめずに探します。そして、見つかったときやうれしいときに見せる弟の笑顔はとてもかわいらしく、私たちまで笑顔にしてくれます。そんな弟は、私たち家族の中で常に中心にいます。

　世の中には弟の他にも様々な障がいを抱えている方がおられます。そのような人たちとも共に生きていくことは、よりよい社会を作るには欠かせないことだと思います。そのためにも相手を尊重することが大切だと思います。

　例えば、地域などで障がいのある方やその家族の方と出会ったときにも、ごく普通にあいさつをしてみませんか。私自身、弟と一緒に外出したときに私たちからあいさつをすると、

笑顔であいさつを返してもらって、あたたかい気持ちになったことを覚えています。もう一つは、市内に障がいのある方が働いているカフェやショップがあるので、そこに行ってみるのはどうでしょう。ごく普通で当たり前のことですが、そうすることで新しい発見や出会いがあるかもしれません。